

科目分類	いのち・人間の教育			開講学科	全学科
科目番号	学年	担当セメスター	区分	単位数	授業時間数
18008	1	前期	選択	2	30
授業科目名 (英文)	社会学 (Sociology)				
担当教員名	村上 晶				
授業の概要及び到達目標					
○概要 社会について考えることは、私たちの日常生活の成り立ちや隠れた意味を明らかにし、相対化していく刺激的な試みである。講義では、社会学の基本的な概念やテーマについて学び、社会的なものを見方を養う。					
○到達目標 代表的な社会学者の議論や概念についての基本的な知識を身につけること、および身近な世界を社会的視点から観察・分析できるようになることを目標とする。					
準備学習等					
各回、授業後には授業で配布した資料を整理しながら読み返しノートを作成、内容について理解を深めてくること（15週×3時間）。疑問点が新たに見つかった場合、各自で調べるか次の授業で質問するなどして解決を試みる。また、講義の内容を常に身近な体験に引きつけて考えるよう心がけてほしい。 期末課題に関しては各自自身のテーマに関する調査・研究し、成果を発表することが求められる（準備学習 15時間）。					
成績評価の方法	授業への積極的な参加（40%）、小テスト（20%）期末課題（40%）				
テキスト	特定のテキストは使用しない。資料は適宜配布する。				
参考図書	『社会学』、長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志：（有斐閣） 『よくわかる社会学』、宇都宮京子（編）：（ミネルヴァ書房） 『大学生のための社会学入門』、篠原清夫・栗田真樹（編）：（晃洋書房）				
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問等は授業時間内および授業終了後に受け付けます。</li> <li>・課題の成果については第15回の授業の中でフィードバックを行います。</li> <li>・追試験・再試験はありません。必ず課題発表に参加してください。</li> <li>・卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図をご確認ください。</li> </ul>				

## 授 業 計 画

## 第1回:社会学とはいかなる学問か

- ・授業のオリエンテーション
- ・社会学は何を対象とした学問なのか考える。

## 第2回:理論家たちを知る

- ・社会学の歴史について知る。
- ・特にウェーバー、デュルケーム、ジンメルについて知る。

## 第3回:社会調査の方法

- ・社会学の調査方法にはどのようなものがあるか知る。

## 第4回:秩序と逸脱について

- ・逸脱をめぐる議論から社会と秩序について考える。

## 第5回:家族の社会学

- ・家族観の歴史的変遷や世界の様々な「家族」の姿から、現代の家族について考える。
- ・ジェンダーについて考える。

## 第6回:近代化と自己

- ・近代化とは何か、何かが変わったとされているのか考えていく。
- ・近代における自己・アイデンティティについて、どのような議論があるのかを知る。

## 第7回:日本の近代化とそれ以降

- ・日本の近代化について考える。
- ・「現代」をめぐる議論（後期近代／ポスト近代といった区分）について考える。

## 第8回:人と人とのつながり

- ・身近な関係性から民族、国家といったものまで、人と人とのつながりについて考える。

## 第9回:宗教の社会学

- ・宗教を社会的にみるとはどのようなことか、基本的な議論や概念を学ぶ。
- ・世俗化論とそれ以降の議論について知る。

## 第10回:文化の変容

- ・文化の定義や文化の進化、伝播、変容、伝達などに関する議論を知る。
- ・伝統について考える。

## 第11回:メディアと社会

- ・メディアの歴史と、メディアによって社会はどう変化するのか考える。
- ・小テスト実施

## 第12回:現代の社会学

- ・社会学の分野でどのような研究があるのか実際に論文を探してみる。

## 第13回:社会学的知の実践

- ・自分の関心のあるトピックについて、授業で扱った議論を参照しながら問いと仮説を立ててみる。

## 第14回:まとめ

- ・授業で扱った議論や事例を振り返り、議論を行う。

## 第15回:課題の成果発表・ディスカッション

- ・研究成果を発表し、ディスカッションを行う。

※受講者の習熟度に応じて内容の一部を変更する場合がある。